

12年ぶりの紅葉ライトアップも。混雑を避けて紅葉を堪能 横浜の名勝庭園で日本の秋を愉しむ | 三溪園

2021年11月26日(金)～12月19日(日)

横浜市が誇る名勝庭園「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、2021年11月26日（金）～12月19日（日）まで、日本の秋を愉しむ企画の第2弾として『紅葉』を開催します。12年ぶりに実施する紅葉ライトアップや、普段は立ち入ることのできない遊歩道の開放のほか、茶店では秋限定のメニューなどを提供します。未来都市横浜で、古建築と紅葉が織りなす風情をご堪能ください。



開催の背景

三溪園は、約17.5haの広大な敷地に、17棟の古建築が配置され、そのうち10棟が重要文化財に指定されています。創設者である原三溪（1868年～1939年）の邸宅であった「内苑」と、開園当初から一般に公開されていた「外苑」とで構成され、そのどちらもが紅葉を楽しめるスポットとなっています。

例年、期間中約3万人が訪れる人気の季節ですが、今年は新型コロナウイルス感染予防にも配慮し、例年より開催期間を長く設定したほか、開園時間の前と夜にイベントを分散することで、混雑を避けてゆっくりと紅葉を楽しめるように工夫しました。夜間の紅葉ライトアップは三溪園では12年ぶりとなります。



1. 開園1時間前から入園できる特別チケット発売

通常の開園時間より1時間早い8:00から入園できる特別チケットをご用意しました。1日限定50名なので、混雑を避けてゆっくりと紅葉の観賞や撮影を楽しめます。

期間 11月28日(日)、12月3日(金)～5日(日)、10日(金)～12日(日)

時間 8:00から入園可能

料金 3,000円(各日50名限定)

事前予約制 https://sankeien-kouyou.peatix.com?utm_source=pressrelease

2. 紅葉の遊歩道公開

モミジの名所となっている内苑の「聴秋閣」奥の遊歩道を開放します。通常は立ち入り禁止となっている溪谷沿いの道から三重塔を遠望する、古建築と紅葉が織りなす絶景が見どころです。

期間 11月27日(土)～12月19日(日)

料金 入園料のみ

3. 紅葉ライトアップ

三溪園では12年ぶりとなる、紅葉のライトアップを行います。外苑と内苑のモミジや古建築を、約60灯のライトで照らし出します。

■夜間ライトアップ

期間 11月26日(金)～28日(日)、12月3日(金)～5日(日)、12月10日(金)～12日(日)

時間 16:30～20:00(最終入園19:30)

料金 入園料のみ

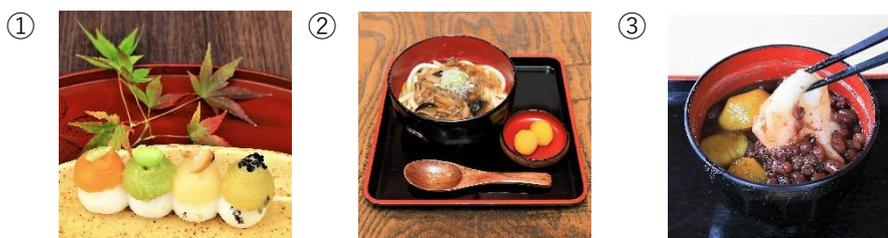
※17:00からは観覧範囲を一部制限します。

※ライトアップは日没30分前(16:30頃)から20:00まで行います。

4. 秋限定のメニューも楽しめる

園内の3つの茶店では、秋限定の特別メニューもご用意しています。

期間 開催中～12月19日(日)



① 秋のいろどり団子 1本300円(三溪園茶寮)

② きのこたっぷりうどん/そば 900円(待春軒)

③ 栗入り汁粉 700円(雁ヶ音茶屋)

同時開催



「フランスと日本文化の Conversation ショーメのサヴォワールフェールと日本の名匠3人との対話」

日程：2021年11月23日（火）～11月28日（日）

会場：三溪園 鶴翔閣

時間：9：00～17：00

料金：無料（三溪園の入園には入園料が必要です）

主催：LVMH ウォッチ・ジュエリー・ジャパン株式会社 ショーメ ディヴィジョン

Supported by：在日フランス 大使館、公益財団法人 三溪園保勝会

三溪園での新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組について
皆様が安心して来園いただけるように、次の点に取り組んでまいります

- ・スタッフのマスクおよび手袋の着用
- ・窓口での透明フィルムの設置と一部窓口の閉鎖
- ・カード・現金および入園券のトレイでの受け渡し
- ・窓口への手指消毒液の設置およびトイレ手洗い場への石鹸の設置

※ボランティアによるガイドサービスは11月より様子を見ながら段階的に再開していく予定です。

ご来園の際、皆様には次の点にご協力・ご配慮をお願いします。

- ・37.5℃以上の発熱等、体調不良の場合の入園の自粛
- ・マスクの着用
- ・咳エチケットの徹底
- ・手洗い、手指消毒の徹底

補足資料



◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家原三溪によって、1906年（明治39）5月1日に開園されました。約17.5ha（東京ドーム約3.7個分）に及ぶ園内には、京都や鎌倉などから廃仏毀釈などによる荒廃から守るために移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、現在、園内にある17棟の古建築のうち10棟が重要文化財、3棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。

開園当初から「遊覧御随意」を掲げ、外苑を24時間無料開放するなど、「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953年（昭和28）に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、復旧工事を実施、現在に至ります。2007年（平成19）には国の名勝に指定されました。

◆原三溪について

原富太郎（本名富太郎）（1868年/慶応4～1939年/昭和14）は、岐阜県厚見郡佐波村（現在の岐阜県岐阜市柳津町）に生まれ、1885年（明治18）東京専門学校（現在の早稲田大学）に入学、政治・法律を学びました。その後、跡見学校の助教師になり、1891年（明治24）教え子であった原善三郎の孫娘、屋寿と結婚、原家に入籍します。原家の家業を継ぐと、生糸輸出を始めるなどの経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収めました。実業家以外にも様々な面を持ちあわせた三溪は、住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906年（明治39）三溪園を開園するほか、美術品の蒐集や芸術家の支援・育成を行いました。1923年（大正12）の関東大震災後は、横浜市復興会長に就任すると、それまでの作家支援を止め、荒廃した横浜の復興に力を注ぎました。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されています。



施設概要



施設名	三溪園（さんけいえん）
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式HP	www.sankeien.or.jp
公式SNS	www.instagram.com/sankeien_garden
入園料	大人700円／小中学生200円 横浜市内在住の65歳以上200円（濱ともカードの提示が必要）
開園時間	9：00～17：00（最終入園16：30）
アクセス	JR根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車、徒歩10分 横浜駅東口から市営バスで35分「三溪園入口」下車、徒歩5分